

氏名	小出 祐子
学位(専攻分野)	博士(学術)
学位記番号	博甲第259号
学位授与の日付	平成14年3月25日
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当
研究科・専攻	工芸科学研究科 機能科学 専攻
学位論文題目	近世建仁寺境内における宅地開発と参詣空間の成立について (主査)
審査委員	教授 日向 進 教授 石田 潤一郎 教授 森田 孝夫

論文内容の要旨

(論文内容の要旨)

近世京都の都市域は鴨川を越えて延伸する様相をみせ、鴨東の町場化は当地に新たな性格を付与することになる。本論文では、近世の建仁寺境内を事例として、寺社の財政基盤として積極的にすすめられた境内の開発や、集客を目標とした参詣空間の演出というテーマがとりあげられている。そして、領主側の経営事情を反映した財政策の検証を通して、それらが領主である寺社の存立にもたらした影響について論じられている。

序章：「近世建仁寺境内の開発過程」

本論文が対象とする建仁寺境内について、18世紀における開発をめぐる前後の状況などを概観している。

第一章：「明和二年における建仁寺法堂再建と境内の開発について」

建仁寺の境内開発が18世紀に入り積極的に進められた要因を領主建仁寺の内部事情に求め、当時建仁寺において進められていた法堂再建事業との関わりに注目する。この再建計画の過程と、それにともなう資金調達の方策を追求した結果、境内開発による収益の増大は、再建事業を完遂させるために欠くことのできない方策であったこと、したがって、法堂再建事業の計画が境内開発を推進させる一要因となったことを明らかにしている。

第二章：「境内開発による収益一天明の大火灾と開発後の展開一」

建仁寺境内に形成された新家地をめぐってかわされた、宅地開発に関わる建仁寺側の文書を中心史料として、地代増収を企図して進められた開発の目標と現実について論考している。領主建仁寺にとって、境内の開発行為は開発後の宅地に高額な地代を設定することで、収益の増大を見込み得るものであり、そのことが境内の開発を急速にすすめる原動力となっていた。しかしこうして形成された宅地をめぐる需要と供給の不均衡と、天明8年(1788)の大火灾による境内の類焼は、建仁寺をして町地の活性と振興に腐心させることとなり、地代減額などの措置がとられていくことについて論じている。

第三章：「建仁寺門前蛭子社における参詣空間の成立」

脆弱な財政基盤のため、社頭の修復も滞りがちであった建仁寺鎮守蛭子社は、18世紀後半以降、参詣者による賽銭・賽物が重要な収入源として注目されていく。本章では、こうした動向が当社の配置計画に大きく影響を及ぼし、参詣空間が積極的に演出されていくプロセスにつ

いて論考している。

論文審査の結果の要旨

本論文は、17世紀後半を画期として活発化する京都における都市域拡大の契機が、領主である寺社側の財政基盤及び経営事情にあることに着眼した。近年発掘された膨大な建仁寺近世文書を素材として、寺領（境内地）の不毛な耕地を宅地として開発することが、法堂という主要建築再建を企図する建仁寺の寺院経営策として進められたことを論じた。また、開発された境内の町地における地代収益の効果について検討し、領主建仁寺が設定した宅地開発による增收計画の目標は、18世紀後半から19世紀にかけての宅地需要に対する圧倒的な供給過多という事態のもと、順調にはすすまず、地子（地代）を請け負う「屋敷主」に対する数々の措置を講じなければならなかつたという実情を明らかにしている。さらに、建仁寺境内に居住する人々の産土神として信仰を集めていた蛭子社の社頭景観に着目し、領地経営に財政の基盤をおくことができない宗教施設が、社地の整備、本殿建築形態の莊厳化、新規祭礼の企画などによって参詣者を引き寄せたことで、集客による賽銭・賽物収入に財政基盤がおかれたことを明らかにした。なお「十日えびす」として親しまれている正月10日の祭礼は、このような状況のもと、安永3年（1774）に始められたことが指摘されている。

17世紀後半以降、鴨東の耕地が宅地として活発に開発されていくことの背景として、寺社経営という視点を導入した本論文は、近世京都の都市史研究に新鮮な視座を与えるものとして高く評価することができる。

本論文は、審査を経て掲載された3編の論文、その他をもとに構成されている。

- ・小出祐子：「近世京都における新地開発について—18世紀建仁寺門前地区を事例として—」『日本建築学会計画系論文集』第532号、pp.209-214、2000年6月
- ・小出祐子：「明和2年における建仁寺法堂再建と境内の開発について」『日本建築学会計画系論文集』第543号、pp.259-266、2001年5月
- ・小出祐子：「近世建仁寺門前蛭子社における参詣空間の成立について—18世紀後半の普請計画を通して—」『日本建築学会計画系論文集』第553号、2002年3月掲載決定